

別紙1

ヒグマによるリスクの軽減等の観点から留意すべき事項や禁止事項

利用者が知床半島先端部地区(知床岬方面)に立ち入る際にヒグマによるリスクの軽減等の観点から留意すべき事項や禁止事項は、次のとおりです(「先端部地区利用の心得」より抜粋)。

① 未然防止

- i ヒグマの生息密度が特に高いルシャ地域(ルシャ川河口付近を中心にウブシノッタ川からタキノ川に至る地域(別図-1「先端部地区位置図」、「区域図」参照)には立ち入らないこと。特に野営は厳に行わないこと。
- ii 野営の際には、ヒグマに関わる事故を避けるため、テント場、調理・食事の場所及び食料保管場所をそれぞれ十分に離して設け、テント内に食料を持ち込むことは厳に避けるとともに、食料やゴミは絶対にヒグマに取られないよう「ヒグマ対策用携帯食料保管容器(フードコンテナ)」の中に厳重に保管すること。また、テント周辺を「携帯式電気柵」で囲うことを推奨する。
 - ※「携帯式電気柵」については、知床自然センターのホームページを参照
 - ※フードコンテナ及びiiiに記載のあるクマスプレーについては、ルサフィールドハウス、羅臼ビジターセンター、知床自然センターで貸与している。
- iii クマスプレー、鈴等リスクの軽減、事故防止のための装備を備えること。
- iv 臭いが強い食料や持ち物はヒグマを誘引し、危険である。食料や持ち物はできるだけ臭いが発生しないものを選定すること。
- v 食料やゴミなどヒグマを誘引する物を含む荷物は、常に持ち歩くこと。途中に一時置いて行動すること(いわゆるデポ)は絶対に行わない。ヒグマに食料を取られないようにデポすることは困難である。また、食料等を含まない荷物についても、デポしないことを推奨する。
- vi エゾシカや漂着した海獣類等の動物の死体があった場合、ヒグマが餌付いている場合があり、餌を守ろうとするヒグマから激しい攻撃を受ける可能性があるので不用意に近づかず、すみやかに離れること。
- vii ヒグマと至近距離で不意に出会うことが事故の原因となることから、特に見通しの悪い植生地や場所では声を出す等あらかじめ人の存在を伝えること。
- viii 常に周囲に気を配り、注意を払うこと。(特にサケ・マス遡上時期の河川等はヒグマが集まりやすい。)
- ix 夜間や薄明薄暮、濃霧の時等視界が効かない時には、突発的な遭遇が起りやすいので、なるべく行動しないようにすること。
- x ヒグマに対して絶対に餌を与えないこと。

② 遭遇時の対応

- i 進行方向にヒグマを目撃した場合は、ヒグマを刺激しないように引き返す等適切に行動すること。

ii 食料やゴミを取られたり、人や食料に対して意図的に近づく個体を確認された場合は速やかに引き返すこと。(取られたものは取り返さないこと。)

③ 事後対応

食料やゴミを取られたり、人や食料に対して意図的に近づく個体を確認された場合、あるいは追跡を受けたり、事故が発生した際には、他の「利用者」のリスクの軽減のため、環境省自然保護官事務所（ウトロ・羅臼）、羅臼町役場または知床自然センターのいずれかに速やかに連絡すること。

※フードコンテナ及びクマスプレーについては、知床財団ホームページ参照のこと。

(http://www.shiretoko.or.jp/bear/bear_10.htm)